

【栄区】令和 7 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 2 月 3 日（月） 午前 10 時 33 分～午前 11 時 29 分
場 所	栄区役所新館 4 階 8・9 号会議室
出席者	<p>【座長】 興石かつ子議員</p> <p>【議員：2 名】 大桑正貴議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：30 名】 松永朋美区長、大塚尚子副区長、 横森喜久美福祉保健センター長、 大野豊福祉保健センター担当部長、 小野範子福祉保健センター担当部長、 宍戸由範土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	1 令和 7 年度個性ある区づくり推進費予算案について
発言の 要 旨	<p>長谷川議員：今年度、小児医療証ケースを作成していたかと思うが、配布は全て終わったのか。また、妊婦の方など受け取った方の感想などがあればお聞かせいただきたい。</p> <p>田中麗子区政推進課長：小児医療証ケースの配布については、11 ページのタッチーくんと一緒に育つさかえっ子事業の（2）の事業として来年度も継続していく予定。感想は把握していないが、別途お伝えさせていただく。</p> <p>長谷川議員：わが子は 17 歳と 13 歳で、母子手帳ケースの中にいまだに小児医療証等を保管しており、まだ、この先、幾つになっても、親子で一緒に育っていくものとして持ち続けるのではと思う。とてもすてきなものを作成されたと思うので、今後もぜひ積極的に続けていただきたい。</p> <p>7 ページ（7）の新規事業、発育・発達相談支援事業について伺いたい。発達障害や特性を持ったお子さんというのは学校に入ってからほかのお子さんとは違って違うことに気づくことが多く、就学前にはなかなか気づきにくいのではないかと。そういった中で就学前にこの相談をするということに決めた経緯などを含めて、事業内容についてお聞かせいただきたい。</p> <p>矢口照彦こども家庭支援課長：発達の遅れについて個別に臨床心理士へ相談する「こども相談（心理個別相談）」というこども青少年局の事</p>

業があり、区では1歳6か月健診や3歳児健診などの機会に保健師がお話をさせていただく中で、または少し発達が遅れているのではないかという保護者ご自身のお申し出から、こども相談事業へつなげている。しかしながら昨今、受付件数が非常に増えてきて数か月の待機時間が発生しており、保護者の方は非常に不安を抱えてしまうため、臨床心理士がその間の心のフォローをやっていこうと考えている。また、相談を受けた中で、療育的な必要性があるのではとなれば療育センターをご紹介するが、そうでない場合はもう少し様子を見ましようとなる。その際、発達の状況を見るために、大体6か月間ほど期間を空けるようにするため、その6か月の間も不安になる保護者の方もいる。保護者の方の精神的なフォローや、お子さんの様子を見た中での助言もできるのではないかと、という趣旨で事業を開始することとなった。

長谷川議員：集団行動では如実に自分の子は違うなということを感じやすく、保護者が責任を感じてしまったり、お子さんとどう接していいかわからない場面も出てくるのでは。初動がとても大切だと感じている。保護者が対応方法を理解していくことができればお子さんが自己肯定感を否定することなく特性を生かして成長できるのではないかと。ぜひ積極的に事業を進めていっていただきたい。

11 ページの6（2）栄区民ロードレース大会について、毎年楽しく参加させていただいている。今年は区外の方もエントリーできるということで、私も区外、市外の方に積極的に声をかけたところ、会場へのアクセスについて、交通の利便性が悪いという声を耳にした。朝の交通対策についてお聞かせいただきたい。

谷川みちる地域振興課長：神奈川中央交通さんをお願いして、朝については大船駅発の7時台と8時台を増便していただく。帰りの便については、上郷ネオポリス発の10時台以降について増便をお願いしている。

長谷川議員：12 ページ1（2）新たな担い手応援事業について、新たな担い手発掘に向けた広報支援に新規で取り組むということだが、今後、人口減少が如実に表れていく中で、新しい担い手を探していくというのは、やはりとても困難ではと思う。外国人や、明治学院大学の学生など、もっと広域に募集をしていったほうがいいのか

ではないか。新たな担い手の発掘に対して、今後は新しくこういったところまで視野を広げて探していこうというような視点があれば伺いたい。

田中麗子区政推進課長：今回始めるこの担い手発掘に向けた広報支援は、各地区連合や自治会町内会の皆様が、例えば「こういうイベントをやるので手伝ってくれる人を探したい」、「広報誌の編集をしてくれる人を探したい」というようなご要望に対して、広報よこはまへの掲載やホームページでの発信などにより、担い手を募集する皆様の取組を応援したいということで事業化している。長谷川議員が仰った外国人や大学生なども、広報よこはまやホームページ等は見えていただけたと思うので、これまで地域の皆様がつながることが難しかったところにも向けてアプローチしていきたいと考えている。一昨年度から実施している名人育成講座において、新たな担い手の皆様より、区役所からの募集であったことが非常に参加しやすかったというお声があったことを受けて、こういった形で自治会町内会の皆様の支援したいということで事業化した。

長谷川議員：とても理想的な取組だと思う。ぜひ広報していただきそういったイベントに関わる方が少しでも増えてくれたら盛り上がるのではないかと思いますのでよろしくお願ひしたい。

15 ページ5 さかえ健康づくり推進事業に関連して、健康促進に向けては歯周病予防がとても大切だと思う。もっと広域に口臭予防や、糖尿病予防などにも取り組んでいただきたいと思うが、いかがか。

栗竹史明福祉保健課長：(2) 子育て世代の健口応援事業は、その名のとおり子育て世代ということで、お母様方、保護者の世代は歯科健診を受診する機会がなかなか少ないというような課題があるため、区役所で行う乳幼児健診の際にお子さんだけでなく保護者の方ご自身の歯も大切にしていきたいということで、事業化した。糖尿病や様々な生活習慣病という課題については(3)健康増進事業で様々なプロモーションを行ったり、各地域で健康チェックやイベント事に非常に活発に取り組んでいただいている保健活動推進員の方々のご協力を得ながら健康増進に取り組んでいきたいと思っている。

長谷川議員：特にお母さんの健康に着目された事業と受け止めた。母乳で1人育てると1本歯がなくなると言われるぐらい、特にカルシウムなど子どもに栄養が摂られてしまうので、ぜひ進めていていただきたい。

23 ページ5（4）さかえの歴史魅力発信事業について、おそらく次年度、上郷猿田遺跡の報告書が教育委員会から提出されるという運びになっている。神奈川県でもなかなか珍しい遺跡であり、報告書が提出されるこの機会にもっと広域に周知したほうが良いのではないかと思うが、それもこの事業の中に入っているのか。

谷川みちる地域振興課長：この予算の中には入っていないが、上郷猿田遺跡は大変貴重なものであり、埋蔵文化財センターと連携しながらそうしたことをお伝えできるように考えていきたい。

長谷川議員：二点要望だが、栄区は森や川など豊かな自然があり、外来種に関する苦情が多く入っているため、区民の方に外来種の取扱いについて、餌を与えてはいけないとか、むやみに触ってはいけないなど、そういったことをぜひ周知していただきたい。

もう一点、栄区内でこれからさらに一人暮らしの高齢者が増えてくると思う。市の一人暮らし高齢者への支援に関しては各局がいろいろな予算を組み支援をしているが、区としても何か新しいこと、特徴のある支援をしていただきたい。以上二点は要望ということで、ぜひ前に進めていただけたらと思う。

大桑議員：20 ページ1（5）いたち川のみどりの保全・さくら再生事業について予算額は30万ということだが、区提案反映制度にも入っているため、様々な予算が絡んでくるのではと思う。クラウドファンディングなども含め概要を教えてください。

坂入啓太土木事務所副所長：区提案反映制度には、いたち川全体として上げさせていただいた。いたち川は河川改修に着手してから50数年経過しており、近年、倒木や大きな枝が落ちたりなど、安全面が喫緊の課題となっている。そのため、これまで行っていなかった樹木医による計画的な樹木診断や台帳の整理を進めることで適切に管理・保全していきたいと考えている。また、プロムナードの桜については、近年、桜の病気や高齢化で大分伐採して本数も減ってきているため、区民の皆様にも親しまれてきた桜の再生に

取り組んでいきたいと考えている。議決前ではあるものの、区提案反映制度にて局再配当により4,380万円程度の予算規模を予定している。これに加え、クラウドファンディング型ふるさと納税で目標額300万円を設定している。本資料に記載の30万円については、クラウドファンディング型ふるさと納税のお礼状の作成や、その発送費用として計上している。

大桑議員：議決前なので軽々しいことは言えないが、それなりの予算額をしっかりと執行していただきたい。桜を伐採すると、どうしても日本人は感情的・感傷的になりがちだが、あくまでも再生に向けたプロセスとしてぜひ進めていただきたい。前回の区づくり市会議員会議でも発言したが、ぜひとも「桜の再生」という点を強調しながら進めていただき、進捗状況も教えていただければと思う。この件について何かあれば伺いたい。

坂入啓太土木事務所副所長：クラウドファンディング型ふるさと納税については、7年度の7月から9月頃に実施し、その結果を踏まえて、樹木の診断や桜の再生に取り組みたいと考えている。そのことは、区連会や広報よこはま等を通じてPRしていく。

大桑議員：18ページ1(3)区づくり連絡調整費、23ページ5(1)読書活動推進事業にも関連して本郷台駅のまちづくりについて伺いたい。市の7年度予算の取組として、新たな大型図書館の整備が挙げられている。本郷台駅前は今後、再整備に向けてやるべき調査は残っていると思うが、栄図書館も30数年経過しており、計画的かつ戦略的に検討していただきたい。ある程度駅前が良いとすると、南部なので大型図書館は難しいかもしれないが、中型であったり南部の拠点という位置づけで検討していただければ、近隣の明治学院大学や鎌倉女子大の学生さんも利用しやすくなるだろうし、栄区のまちづくりの活性化につながると思うので、関係部署と連携して進めていただければと思っている。区づくり連絡調整費など、活用できる予算があれば活用していただきたい。要望・意見だが、現時点で何かお考えがあれば伺いたい。

田中麗子区政推進課長：大桑議員のご指摘のとおり、現在、本郷台駅周辺の公共施設の再編整備を検討しており、その対象には栄図書館も含まれている。本郷台駅周辺は、まちづくり構想において文化機能の集積、それによるにぎわいというのも目指しているため、確

かに大型図書館は厳しいかもしれないが、建て替えるタイミングに向けてぜひ機能拡充を調整していきたいと考えている。そのために、どのような準備ができるのかということについて検討していきたい。

大桑議員：難しいかもしれないが、最初から諦めるのではなく、大型図書館も念頭に、ぜひとも機能拡充という観点でお願いしたい。

資源循環局の予算概要に旧栄工場跡地の調査で数百万の計上があったと聞いている。資源循環局としては災害時のがれき集積場所としての機能は絶対に残さなければいけないとのことだが、かなり広大な土地で、地域の皆さんから少し離れた場所かもしれないが、南環状線もできて交通の利便性が向上するだろうし、栄区としてもうまく関わりながら地域の方にも資するような場所になるべきではと考えるが、いかがか。

大塚副区長：大桑議員のご発言のとおり、資源循環局が災害廃棄物の仮置場などの可能性も含めて、土地の活用について検討する予定。栄区としても、区民の方が利用されるグラウンドもあり、非常に貴重な土地と認識しているので、局の検討状況を見ながら、区民の方に資するような活用がされるように、連携して検討していきたいと考えている。

大桑議員：区民の方にとっても、市にとっても有効に使えるように、ぜひ調整・共生をお願いしたい。

6 ページの栄区予算案の考え方に記載があるが、来年が区制 40 周年、次が GREEN×EXPO 2027 となるので、ぜひ連動して取り組んでいただきたい。前回の 30 周年の際は、お座敷列車で栄区民が栄村に行ったと思う。同じことをすれば良いという意味ではなくて、例えば発想の転換で今度はお呼びするとか、友好交流都市の方ともうまくコミュニケーションを取りながら、やり方を考えていければと思う。どのようなことができるのかについては、皆さんのお知恵を借りて調整や相談をさせていただきながら進めていきたいと思うが、区制 40 周年と GREEN×EXPO 2027 という好機を捉えて友好交流都市ともうまく連携できればと考える。ほぼ要望だが、何かお考えはあるか。

金子強総務課長：区制 40 周年とその翌年の GREEN×EXPO 2027 がそれだけで終わることなく、その先もしっかり見据えながら進めていかな

ければいけないと考えている。3月の実行委員会に向けて、30周年の様々な事業を調べているところ。議員の皆様にも顧問として関わっていただき、様々な意見を伺いながらしっかり進めていきたいと考えている。

興石座長 4 ページ 1 誰もが安心して出産や育児ができるまちづくりの2
さかえ子育て支援機能強化事業について、残念ながら大分減額されているのだが、その経緯は。

矢口照彦 子ども家庭支援課長：6年度予算と比較して、取りやめた事業は基本的にはない。単年度の取組が完了したことによるもの。7年度には拡充や新規細事業もあり、実質的に継続事業は増になっているという状況。

興石座長：次世代交流ステーションは、水道局跡地の建物の資産有効活用という点で、市全体で見ても突出してうまくいっている例だと思う。局予算の資料にも必ずと言ってよいほど写真が掲載されていて多世代交流や様々な課題を一緒に解決するという特別な場所。単発の取組が終了して減額したということは理解したが現場感をもう少しリサーチすると、実際にはかなり人間力で乗り越えてもらっているところが多いので、少し応援できるといいのではないかと考えているが、いかがか。

矢口照彦 子ども家庭支援課長：5年度はハード面に手を入れることはなかなか難しく、6年度は、区として備品の整備をフォローした。区としても施設の老朽化や設備の課題は重々認識しているが、エアコン機器の更新など区づくり推進費の自主企画事業費での費用捻出は性質上難しいものもあるため、いろいろ議論しているところ。課題感は当然持っている。

興石座長：応援していくように頑張りたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

8 ページ 1 (1) ②市立園のウェブサイト作成について、私立園についても対象としてはと考えるが、なぜ市立園だけなのか。

村上佳江 学校連携・子ども担当課長：私立園は画像等をふんだんに使って分かりやすいホームページになっている中、横浜市立園のホームページでは活字だけの紹介になっているため、今回はまず、横浜市立の保育園と考えている。

興石座長：(7) 発育・発達相談支援事業について、新たな人員配置という

ことは考えているのか。恐らく多忙になるのではと思うが。

矢口照彦こども家庭支援課長：基本的には臨床心理士の会計年度任用職員が担当する。当然、ひとりではなかなか難しい状況なので、人員強化として臨床心理士の謝金を予算計上している。

興石座長：9ページ4（1）③就学時健診にあわせた情報提供に関連して、放課後の子供たちが過ごす場所である放課後児童クラブや放課後キッズクラブについて、どうしても市は放課後キッズクラブを中心に進めているが、学童保育のニーズはこの先もなくなることはない。放課後児童クラブを選びたい保護者が一定数必ずいる中で、どうしても放課後児童クラブの情報を提供し切れないということが長年の現場の皆さんの課題になっているので、ここでぜひ平均的に放課後児童クラブの紹介もするようにしていただきたいと思うが、いかがか。

村上佳江学校連携・こども担当課長：もちろん放課後児童クラブの情報も、放課後キッズクラブと併せて発信していきたいと考えている。

興石座長：放課後キッズクラブは、皆さんに一律に渡しているが、放課後児童クラブは「もしよかったらお持ちください」というのが現状。「もしよかったら」という場合に新1年生の保護者の方がその情報に手を出せるかというとなかなか難しい。同じように配られれば同じように比較検討対象になると思うので、そこはもう一步踏み込んでもう少しニーズを聞いてあげていただきたい。

村上佳江学校連携・こども担当課長：放課後児童クラブの情報についてもキッズクラブと同じように取り扱ってほしい旨、各学校に依頼はしている。また、11月以降に放課後児童クラブの説明会を行うところが多いため、広報よこはま等を活用して周知に努めている。興石議員のご指摘があった点を十分踏まえながら、今後の発信について検討していきたいと考えている。

興石座長：20ページ1（5）に関連して、並木道のように目立つ桜のほかにも、栄区にはシドモア桜や、長倉桜と呼んでいる上郷・森の家の美肌桜がある。長倉桜は大分美肌ではなくなっているが、区民が愛着を持っている桜が区内各地にある。桜は、栄区の木として認定されていることから、ぜひアンケート等により情報収集して、広報と情報収集と兼ねて桜のプロジェクトを拡大してもらいたいと思うが、いかがか。

坂入啓太土木事務所副所長：所管が異なるということもあるので、それぞれの所管の部署とも協議しながらやっていきたいと考えている。

興石座長：所管が異なるからというのは仰るとおりだが、市民は皆、みどり税を払っているという意識がある中で、各事業局がもう少し横連携していくべきだと考える。教育委員会が所管する緑化、道路局が所管する緑化というようなものを区ならではの視点で連携してやっていただきたい。

21 ページ4（4）②デジタルスタンプラリーについて、学生の活用とか、先ほど担い手発掘で声をかけるというお話があって非常にいいアイデアだと思うので、取り組んでいただける人を募集してみたいかがか。

田中麗子区政推進課長：デジタルスタンプラリーの進め方については今後検討していくが、デジタルスタンプラリーという性質上、人の配置等は想定していない。地区センターとかコミュニティハウスなど、多くの方が利用する施設にブースなどを設置して、年間を通して情報発信を進め、デジタルスタンプラリーによって、そこに立ち寄る機会を作っていきたいと考えている。

興石座長：アプリやウェブサイトを事業者に委託するのか。

田中麗子区政推進課長：デジタルマップスタンプラリーのプラットフォームを使えるようにして、そこにスポットをプロットしていく予定。

興石座長：地域防災拠点に関連して、いわゆる地域防災拠点を立ち上げるときには、専門知識を有する人でないと立所できないのではないか。

金子強総務課長：震度5強の発災で各地域防災拠点には自動的に拠点の立ち上げをお願いしている。区独自で作成した地域防災拠点のファーストミッションボックス立ち上げキットにより立ち上げに詳しくない方でも、地域防災拠点の運営委員の方であれば立ち上げられるようにしている。

大桑議員：区提案反映制度1市南部における小中学生が硬式野球をできる環境の提供に向けた調査についての要望だが、以前からお話させていただいていて戸塚区の鈴木議員などと調整している。今すぐにどうという話ではないが、進捗状況について共有しあい、一緒に調整していきたい。

	興石座長：ほかに発言がないようであれば、本件は以上となる。 会議報告書の作成については座長一任。了承
備 考	